

フォレストニュース

植林を終えてから 本当の苦労

パンタナールでは植林をした後も過酷です。木がある程度まで成長するまで、少し手当を怠ると、日本で言う、藪枯らし(やぶからし)が、木を取り囲み、蔓(つる)で完全に取り囲まれ、木を枯らしてしまいます。細い木に絡まった蔓を取り外すためには機械が使えず、一本一本手で取り外すしかありません。

＜蔓草との戦いは続く＞

第五植樹園(旧第五農場)は、ニームとモリンガ合わせて6500本の苗木が植えられていますが、蔓草の繁殖が激しく、全地域を制覇しようと苗木を目指

パンタナールでは植林をした後も



して触手を伸ばして来る蔓草に対して、絶えずこれをはびこらせない為の地道な蔓草取り戦闘が続いています。正に根こそぎ、芋蔓式に取る必要があります。この2週間は、殆ど私一人で取り組んでいる為、10h全体の10分の1程進みました。

また、固い雑草が伸びたら、現地の労働者に頼み、木を傷めないように手で鉋を持って刈り取るしかありません。

しかし、3年ほどすると植樹された木々はきれいな花を咲かせ、私達を慰めてくれます。花の写真は百日紅(さるすべり)です。また、レダの池に蓮の花が最盛期です。20程の花が咲いて美を競っています。(蓮は12/10撮影)

(飯野貞夫元理事)



木を傷めないように手作業が続く



百日紅が3本きれいな花をつける

国際生物多様性年 COP10/MOP5

平成22年(2010年)

は国連の定めた国際生物多様性年であり、また、日本で生物多様性条約第10回締約国会議/カルタヘナ議定書第5回締約国会議が開かれる重要な年でもあります。



2010年 国際生物多様性年

(今年10月・名古屋で開催)

以下、環境省のガイドラインから一部抜粋。

地球が誕生して以来、長い時間をかけて私たち人間も含めた様々な生物が生まれ、つながりあって生きてきました(「生物多様性」)。この生物多様性がもたらす恵み(生態系サービス)によって、私たちのいのちや暮らしは支えられています。

＜生物多様性の恵みの例＞お米、野菜、木材、魚、おいしい水などをもたらしてくれる。山、川、海どの地域の景観やその土地固有の文化を生み出す。自然の仕組みから技術革新の着想を得る。＜生物多様性の現状を示す例＞人間活動の影響により、生物種の絶滅速度はここ数百年で約1,000倍に加速。現状は、約20分に1種の生物が絶滅しています。世界の森林生態系が年間約7万3千km³減少(日本の国土面積の約5分の1)。

次号から順次、国際会議のための情報を報告していきます。

NPO地球の緑を守る会

発行 高津啓洋

〒158-0097

東京都世田谷区用賀4-34-12

グリーンハウスNo.2-231号

電話: 03-5717-9358 FAX: 03-5717-9359

ホームページ: <http://midori.mond.jp/>

E-mail: midorinokainpo@yahoo.co.jp